

事業評価シート（平成25年度分）

1. 事業の位置付け

事務事業名	西部丘陵地域資源活用検討事業		
事業担当	まちづくり政策部 まちづくり政策課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'02	②〈住みごころ〉人にやさしい居住空間をつくる	
	'01	1 地域の特性や景観を活かしたまちづくりを進める	
根拠法令等			
対象・受益者	市民、地域住民	事業期間	
委託・協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 地区まちづくり協議会等】		
	目的・目標		事業の概要
恵まれた環境の保全を図りながら、自然資源、歴史資源が活用され、地域の活力が増進しています。		活力ある西部丘陵地域にするため、豊かな自然と地域資源の活用方を地区まちづくり協議会と協働で検討します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	目標					
	実績					
活動指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	目標					
	実績					
成果指標①	指標名	活用検討進捗率			単位	%
	説明・算定式	活用要素の洗い出し20%、活用要素の担保性の検討30%、活用指標の検討20%、活用資源に基づくまちづくりの検討30%				
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	目標	50	70	70	80	
	実績	50	60	70		
成果指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	目標					
	実績					
進捗状況	①：予定どおり					
	遅れている理由					
平成25年度の主な取組と成果						
吉沢地区自治会連合会の下部組織である「湘南ひらつか・ゆるぎ地区活性化に向けた協議会」をモデルとして地域資源である里地里山を保全再生するための検討を進めております。また、地域の意識向上を図るため「考えよう！アメリカ・ポートランドに学ぶ「ひと」と「地域」が調和した「まちづくり」というテーマで講演を実施しました。さらに、産官学民の協働で地域資源を活かした管理活動に関するワークショップを行いました。						
平成25年度の検証結果	A：成果があがった					

項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価	
事業分析	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	吉沢地区において、自治会を中心に地域資源を活かした地域の魅力化・活性化を検討する協議会が組織され、活発な活動が行われています。市民主体のまちづくりを拡充していくため、今後も専門家の派遣が必要です。	● 高 ○ 低
	有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	都市マスタープランに取組みの方向性が示された「ひらつかウエスタンヒルズ」の地域内であり、里山の保全や地域の活性化等都市マスタープランの地域のまちづくり方針の実現化につながる有効な事業です。	● 高 ○ 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	自然環境に恵まれながらも適切な維持保全ができていない地域において、資源を活かした地域の活性化を市民が主体となって進めていくことは、協働のまちづくり、自然と共生した持続可能なまちづくりに重要な事業です。	● 高 ○ 中 ○ 低
	効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	地域特性を活かしたまちづくりは、市民・事業者・市がそれぞれの役割のもと協働で取り組む必要があります。市はまちづくりに関する情報の提供や活動の支援を行うことが必要で、その役割を十分果たしています。	● 高 ○ 中 ○ 低
今後に向けた課題の分析 都市マスタープランに、将来都市構造の基本構造(2核1地域)の1地域として位置づけられており、地域住民との協働で、豊かな自然のほか、学術機関や研究所等の地域資源の活用による活性化策を実現するには長い時間を要することとなりますので、その実現化に向けた支援を継続して進める必要があります。				

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 予算額
事業内容		地域資源である里山の保全、再生の取り組み方策の検討、専門家の派遣	地域資源を活かしたまちづくりの実現に向けた検討、専門家の派遣	地域資源を活かしたまちづくりの実現に向けた検討、専門家の派遣	地域資源を活かしたまちづくりの実現に向けた検討、専門家の派遣
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	60	60	60	60
事業費 (A)		60	60	60	60
執行率 (%)		100.00	100.00	100.00	
内訳	職員 (人)	0.46	0.50	0.50	0.50
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		3,728	4,008	3,974	3,907
フルコスト (A+B)		3,788	4,068	4,034	3,967

4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

平成27年度の取組方針 西部丘陵地の地域資源を活かした地域の活性化策として、荒廃山林や休耕地の活用方法などを地域と協働で検討し、必要に応じて専門家の派遣を行います。
課長コメント 西部丘陵地域の自然資源、地域資源等の活用による地域活力の向上は、長年にわたる地域住民の大きな期待であると同時に、都市構造の骨格として平塚市の活力向上に貢献する重要な事業であると考えます。 また、現在進められている地区以外に対しても取組みが進められるよう働きかけを行う必要があります。